岡崎市議会議長　様

支出番号	１２

会派名　　民政クラブ
代表者名　　柴田　敏光　㊞

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動旅行報告書

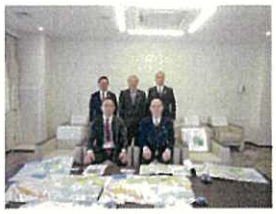
令和　２年３月30日提出

活動年月日	令和　２　年　２月　３日（月）～令和　２　年　２月　５日（水）	
氏名	鈴木英樹、加藤嘉哉　柴田敏光	
用務先及び内容	1 ２月　３日	用務先　高知県高知市
		内　容 長期浸水対策事業
	2 ２月　４日	用務先　高知県梼原町
		内　容 観光の取組について
	3 ２月　５日	用務先　岡山県岡山市
		内　容 ＭＩＣＥの取組について
	4 月　日	用務先
		内　容
備　考		

岡崎市議会事務局
2.3.30

● 常任委員会視察報告書（№470）

委員会・会派名	経済建設委員会　柴田敏光・鈴木英樹・加藤嘉哉　　報告者：柴田敏光
視察日時	令和２年２月３日（月）１３時30分から１６時30分
視察先・概要	高知県高知市 人口 337,190 人、面積 309.00 ㎡
視察内容	「長期浸水対策事業」について
選定理由（目的）	東海地震・東南海地震・南海地震と心配される中、長期浸水対策が進められている高知市を選定した。
岡崎市の現状と課題	震災が心配される中、本市は多方面での対応策は行われているが、長期にわたる浸水被害を想定される対策が明確でない。様々な想定をして行うべきである。
視察概要及び評価	地震の揺れから命を守るには！ 揺れ始めてからは逃げられません！何もできません！ 「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」⇒安全な場所へ避難 事前の備えが重要 ・住宅の耐震化・家具の固定・感震ブレーカー ※長期浸水対策（救助・救出） 助けを求めるための対策＝直ぐにできるアナログ的対策として 津波避難ビルへの救助サイン用簡易資機材配備 ・孤立避難者情報を伝達するため、ビルの屋上から上空の航空機に向けて掲示するための資機材『RESCUE REQUEST』を平成２８年度から津波被害ビルに順次配備中 ⇩ これだけでは心配、デジタル的な対策も必要 スマートフォンを活用したシステム整備 ***津波SOSアプリができました！*** システムの機能１避難先がわかる２避難後の状況が発信できる 避難所の救助・救出活動に必要な情報収集のため、通信回線（電話・インターネット）が使用できない場合を想定した、スマートフォンの通信機能を活用する「避難者情報伝達・収集システム」を整備 災害時・津波避難ビルが探せる・アプリでどこからでもSOSが送れる ・携帯が繋がらなくても携帯同士をリレーして送れる 平常時・津波避難ビルが探せる ※昨年度４月１日からダウンロードしている 開発費 3000万円 ◎防災施設整備事業 ・自主防災組織が実施する資機材整備の補助 市単独補助事業⇒上限７５万円＊対象メニュー　各種資機材等の整備 ◎地域防災活動担い手支援事業 ・大学生等が自主防災組織の実施する経費の補助 対象メニュー　交通費、日当、消耗品費等 地区防災計画とは 平成２５年の災害対策基本法改正において、地域コミュニティにおける共助における防災活動の推進のため、市町村内の一定の地域住民等が行う自発的な防災活動に関する地区防災計画制度が新たに創設された。 同制度は、地域住民等が市町村防災会議に対して計画について提案を行う事ができるボトムアップ型の計画である。 これまで作成してきた防災計画は多くが行政主導の計画となっており、地域住民等の主体性が低い計画となってしまっていることが課題であった。しかし地区防災計画は地域住民自らが地区の課題について考え、その課題を解決するために検討をするため、主体性が生まれることが期待される。



 	・よさこい会館 昭和２９年に生まれた高知の「よさこい祭り」の歴史や魅力を紹介する「高知よさこい情報交流館」である。 交流館は、２０１３年４月にオープンした無料施設である。 ・祭りの歴史 ・基本ルール ・演舞場の地図 以上のものなどを展示してあり、一目で“よさこい”がわかる仕掛けとなっている。 運営＝市観光協会
本市への反映 （意見・課題など）	【柴田】本市は震災が発生した場合、津波の心配はないのではないかと考えますが、倉敷市真備町・千曲川など河川の決壊による被害は本市でも、矢作川・乙川など決壊した場合大きな被害が想定され、長期にわたり浸水することも想定しなくてはならない。高知市のようにアナログ的な対策として、ビル屋上での緊急支援を要請する表示する資機材を支給することも考えていくべきである。 また、スマートフォンを活用したSOSアプリを導入も本市として検討することを願う。 【鈴木英樹】 高知市において、巨大地震により市街地が液状化し、津波が来た際に市街地が長期的に浸水すると想定されることから、その対策が先進的に取り組まれていました。 特に、長期浸水時に誰がどこに避難しているか状況を把握するためのツールとして、「RESCUE REQUEST」「高知市津波SOSアプリ」が有りました。避難している人が、自分たちで協力し合い、避難者の人数や緊急に助けていただきたい人数を捜索部隊及び災害対策本部に情報を渡すものです。また、市長自らも「市民の命を守る」強い意志のもと「高知市救助救出計画」までも作成されていました。 本市も、津波による浸水はありませんが、河川氾濫により一時的な浸水が発生することが予測されます。今回の調査内容を参考にし、避難された市民をいち早く把握して早期の救助救出ができる取り組みにつなげたいと思いました。 次に、高知よさこいの情報交流館の取り組みについて、よさこいの歴史や現状とその想いがわかり易く整備されていました。また、体験コーナも設置され。よさこいの良さが伝わりやすく考えられていました。本市も、多くの観光資源があります。その魅力を発信するためには、歴史やその当時の考えや想い、そして体験や体感できることが一番であると改めて認識させていただきました。今後の観光行政に引き続き提案していきたいと思います。 【加藤嘉哉】 高知市においては、海沿いの立地ということもあり、南海トラフ地震に備えて、津波対策に取り組まれている。また、「高知市津波ＳＯＳアプリ」を作成し、市民自らが、自分の身は自分で守るという意識を持ってもらい、防災意識を高めている。また、市内の企業とも連携して、災害発生時に、一時避難所としての協力も要請している。日本全国、どこでも災害の恐れがある昨今、どこの自治体においてもスマートフォンによる防災関係のアプリの導入が進んでいる。本市においても、様々な取り組みは行っているが、他市の取り組みを参考にして、よりよい防災対策が出来ることを提案していく。 高知よさこいの情報交流館にお邪魔させて頂き、よさこいの歴史や文化について説明を受けました。今や、全国でよさこい祭りが開催されており、その発祥である高知は、やはりよさこいに対して特別な思い入れがあるということを実感できた。

●政務活動視察報告書（№471）

委員会・会派名	（民政クラブ）鈴木英樹・加藤嘉哉　　（記）加藤嘉哉
視察日時	令和２年２月４日（火）午後１時30分～
視察先・概要	高知県梼原町 ・人口：3,486人　・世帯数：1,789世帯　・面積：23.651km² ・特記事項：「雲の上のまち　ゆすはら」として、四万十川の源流や千枚田（棚田）、そして建築家・隈研吾氏が設計した建物が梼原町内に何ヶ所かあり、国内外から多くの観光客が訪れる観光のまちとなっている。
視察内容	観光の取り組みについて
選定理由（目的）	本市（岡崎市）において、観光のまちとして観光客増に向けての取り組みを進めている。梼原町が、隈研吾氏設計による木造建築物を作り、国内外からの観光客を増やしていることから取り組み内容について本市の参考にさせてもらう。
視察概要及び評価 ＜視察の様子＞ 梼原町総合庁舎	梼原町の観光の取り組み ・日本三大清流のひとつである四万十川の源流の地であること、日本三大カルストのひとつである四国カルスト高原もあり、標高も1400mほどあることから、雲の上のまちとしてＰＲがされている。また、明治維新において、梼原町地域が坂本龍馬脱藩の道となった歴史があり、歴史愛好家の観光客も多く訪れている。そして、町内にある木造芝居小屋・ゆすはら座の保存運動を機に、建築家・隈研吾氏との繋がりが始まることとなる。隈研吾氏設計による建築物により観光客を国内外から増やすことに繋がっている。 1．ゆすはら座と隈研吾氏 ・昭和23年に、戦後復興期に木材景気で儲けた人々を中心に資金を出し合い建てられた芝居小屋であり、以前は別の場所に建てられ一時は保育所としても利用されていたが、徐々に利用頻度が減少し、夏祭りの飾りつけ等の保管場所として利用される程度になっていた。建物の老朽化が進行していることと維持管理費等を踏まえ、取り壊し論が出ていたが、木造芝居小屋が希少であることや梼原の人々の暮らしに根付いてきたという思いから保存運動の機運が高まり、結果現在の場所に移築された。この保存運動に高知市の建築家も携わっており、その中の方に隈研吾氏と知人であったことから、隈氏に梼原町に来訪してもらうことになった。ゆすはら座を訪れた隈氏が、木造建築の素晴らしさに感銘を受け、それ以降木造建築に携わることになる。その出来事から、「隈研吾氏の木造建築のルーツは梼原町にあり」と言えるものと思われている。 2．雲の上のホテル・レストラン ・木造建築物とすることを条件に、隈研吾氏に設計を依頼したものになる。この建物は「雲の上のまち」をテーマとしており、特徴的な屋根は雲をモチーフとし、レストラン前に広がる水面は青空と星を映しこむ棚田をイメージしている。それぞれが梼原町を特徴づけるものでデザインされており、斬新な中にも梼原町という土地・景観に融合する建物になっている。木材は、梼原町産の杉材を使用し、平成６年に完成している。この建築物は、梼原町太郎川公園の一部に建築されており、太郎川公園建築物群の一部として町の玄関口において来訪者をもてなしている。 3．梼原町総合庁舎 ・梼原町総合庁舎は、旧庁舎の老朽化、そしてまちづくりの中心部における防災拠点・住民の利便性向上・環境と町産材の利用を目標にまちづくりの一環として建

て替えられた。この施設には、太陽光発電・クールヒートチューブといった環境に配慮した設備を導入している。太陽光発電は、80kwh という大容量の太陽光発電パネルを設置し、余剰電力は売電できる仕組みになっている。クールヒートチューブは、空調機の運転負荷を低減させ、CO2 排出削減を図っている。また、本施設についても町内産の杉材を使用しているが、一部強度が足らない部分のみ隣町の四万十町のヒノキ材を使用している。杉パネルをモザイク状に配置した外観も特徴的な本庁舎であり、中に入ると広がるアトリウム空間が印象的である。災害時等の有事の際は、一時避難所として開放し利用可能なものにしている。

4. まちの駅「ゆすはら」

・地域物産等の販売施設と宿泊施設を兼ね備えた建物である。特徴として、道路側に面する外壁を茅葺により整備しており町の伝統的な茅葺屋根に学んだものである。茅葺屋根は、梼原町に多くある「お茶堂」の屋根が茅葺で仕上げられており、以前はこのお茶堂で客人をおもてなしし、外部からの情報を仕入れるようにしていた。また外壁杉パネルについては、庁舎に近い外観になっており、杉材が老朽化した場合はパネルを取り外し老朽化した部分のみ交換可能になっている。1 階が地域物産等の販売スペースで地場産品のＰＲ・販売促進を図り町内営農基盤・商業基盤の活性化を目指すものになっており、２階・３階については宿泊施設で全 15 室を完備している。

5. 雲の上のギャラリー

・森のような建築をつくり、梼原の森の中に溶け込ませたいという思いから造られました。３つの棟から成り立っており、「渡り廊下棟」・「ギャラリー棟」・「ブリッジ棟」となっている。「雲の上のギャラリー」の中で最も特徴的な棟が「ブリッジ棟」になる。この部分は枝葉が広がり木漏れ日のような光と影を作り出す建物を目指して設計されている。「ブリッジ棟」と接続する廊下棟は、「雲の上のホテル」と「雲の上の温泉」を繋ぐ連絡通路の動線の一部であり、渡り廊下棟→ギャラリー棟→ブリッジ棟を介してエレベーターにより温泉へと繋がるようにしてある。これまで、悪天候時に宿泊客の方は一旦外に出て温泉まで歩いていく必要があったが、この施設が完成したことにより、天候に関係なく温泉まで屋内動線により行くことが可能になり、安全性・満足度の向上に繋がった。

6. 梼原町立図書館（雲の上の図書館）

・「学びの場」・「憩いの場」・「文化継承・創造・発信の場」の創出を目的として整備されたものであり、人・本・文化を繋ぐ架け橋となるような「わくわくする図書館」を目指すものである。図書館内にはカフェやボルダリングスペースも内包し、また視聴覚スペースでゆったり過ごせるラウンジも整備しており、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が一つの空間を共有できるような施設整備となっている。立地条件も、梼原こども園・県立梼原高校が近隣にあり、地域との結びつき、そして来町者や地域住民同士の交流促進も図られると考えている。外壁には梼原町産の杉材を使用し、他の公供施設との調和を図りながら木の特徴を活かし柔らかな表情を創出しています。

7. まとめ

・梼原町内に、隈研吾氏による建築設計の木造建築物がいくつも建てられ、外観に統一性を持たせ、町一体を木造の柔らかな印象にしている。2020 東京オリンピック・パラリンピックのメイン会場である国立競技場の設計デザインを担当した隈研吾氏の設計による建築物が町内に数多くあることからも話題性が多く、国内外から多くの観光客が訪れている。標高も高く、空気も綺麗でまた四万十川の源流ということもあり、自然も豊富で「雲のうえのまち」というネーミングにぴったりの印象である。

本市への反映 （意見・課題など）	【鈴木英樹】 ・本市の中山間地活性化施策の模索をするために、今回の先進事例を選択しました。 調査結果、人口減少が進む中、「坂本龍馬脱藩の道」など歴史的資源、棚田オーナー制度発祥の地から「かおり風景 100 選」に選ばれた自然を生かした資源、そして「隈研吾氏が設計した公共建築物」などの近代建築物資源などを観光資源として活かし取り組まれていました。近年では、オリンピック・パラリンピックの施設整備の影響で、隈研吾氏が設計に関わった建造物を見にこられる方々が、国内外から増加していました。 行政としても環境の取り組みを進める中、地元材の活用とその施設が魅力あるものになる事により、山林の保全や観光振興に繋がる取り組みにつなげていることも確認できました。この様に、魅力ある施設に、地元木材を利用する事により山林保全にもつながり、木材の地産地消と環境保全が図れる循環社会に繋げていることは大変参考になりました。課題としては、老朽化した施設の再整備をするための計画的な基金整備を考慮しなければいけない事と思いました。これらの視点は、キーワードとして本市の中山間地の魅力づくりに活かせる取り組みと思いました。 【加藤嘉哉】 ・自然を活かし、地元産材を利用して木造建築物を統一感のある外観で町内に建設し、隈研吾氏の知名度も相まって多くの観光客が梼原町を訪れている。また、歴史的にも坂本竜馬脱藩の道があり歴史愛好家にも魅力ある町である。また、第一回棚田サミットが開催され、日本の棚田 100 選にもなっている棚田もある。自然を活かし、地元産材を有効利用してまちの活性化を図っている。本市においても額田地域の地元産材を有効利用して保育園等の公供施設に使用する取り組みを行っている。自然や特産物、歴史的建造物等の多くの魅力ある資源を保有する本市において、いかに魅力発信をしていくかを今後も引き続き取り組んでいく必要がある。

●政務活動視察報告書（№472）

委員会・会派名	（民政クラブ）鈴木英樹　　（記）鈴木英樹
視察日時	令和２年２月５日（水）午後２時00分～
視察先・概要	岡山県岡山市 ・人口：719,474人　・世帯数：313,779世帯　・面積：789.95km² ・特記事項：広域高速交通の結節点という地の利、恵まれた自然や住環境、福祉・医療・教育分野での都市機能の集積などを活かしたまちづくりが進められている。また、国際会議の誘致等にも積極的に取り組くんでいる。
視察内容	MICEの取り組みについて
選定理由（目的）	本市は、市長の２本柱（ものづくり・観光）の一つである観光振興について、昨年11月MICE誘致検討特別委員会を立ち上げ、今後コンベンション施設の整備も含めMICEに力を注いでいる。また、議会研修会においてもJNTOを招き調査研究を進めています。そこで、近隣では広域高速交通の結束点でもある名古屋市・豊橋市があることから、先ずはその規模の進め方の考えを研究するために視察先に選択した。
視察概要及び評価 ＜視察の様子＞ 【説明者】 産業観光局 商工観光部プロモーション・MICE推進課 （課長）林原瑞気様	MICEへの取り組みの経緯について MICEとは、M：meeting（企業などの会議・セミナー）、I：incentive tour（報奨旅行）、C：convention（学会・国際会議）、E：exhibition又はevent（展示会、イベント） 1、プロモーション・MICE推進課発足の経緯 ①平成22年度機構改正 観光課　⇒　観光コンベンション推進課に名称変更 ・岡山市が保有する産業基盤、観光資源等及び政令指定都市（平成21年4月に施行）としてのポテンシャルを全国に向けて発信し、企業や観光・コンベンションの誘致活動を強化するため、経済局にシティプロモーション本部統括機能を設定する。 ②平成29年度機構改正 経済局　⇒　産業観光局に名称変更 ・本市の将来像である「経済・交流都市」の実現に向け、地域経済の成長エンジンとして期待される「観光」を重要政策に位置付けることを明確にし、積極的に施策を推進するために変更。 観光コンベンション推進課の係を再編　―プロモーション推進体制の強化― ・戦略的なプロモーションにより都市ブランドを確立していくため、観光コンベンション推進課の企画振興係と施設係を観光振興係とプロモーション推進係に再編する。 ③平成30年度機構改正 ・市の重要施策に位置付ける「観光」を推進する体制を強化するため、「商工観光部」を設置し、観光振興係、プロモーション推進係を課（観光推進課、プロモーション・MICE推進課）に再編。 ・観光振興課の役割は、観光振興、観光施設等の維持管理など観光資源の魅力向上に向けた取り組み等を所管。 ・プロモーション・MICE推進課の役割は、「桃太郎のまち岡山」の情報発信、インバウンド誘致などのプロモーション活動やMICE誘致を所管。 2、観光を「重点施策」にした経緯 ①岡山市の人口推計 ・将来人口推計では、2020年72万人をピークに人口減少に入り、2045年68.3

万人となり、2015年より約3.6減少する見通し。

将来的な人口減少は、地域の労働人口の減少や経済規模の縮小となる。
地域経済の活力を維持していくためには、交流人口の拡大を図る必要性がある。

国内外からの人を呼び込む観光・コンベンション施策の推進が必要

【観光客・コンベンション誘致の本市の効果】
・岡山市を多くの人が訪れ、観光地の周遊、飲食等による経済波及効果
・観光客を受け入れる地域住民のアイデンティティの醸成・地域の活性化
・宿泊、交通、飲食、土産品等裾野の広い産業への経済波及による雇用の創出
・国際会議等コンベンション開催による都市の競争力・ブランド力の向上

【国際MICE開催による経済波及効果】
国際MICE全体の総消費額（H28開催分）　約5,384億円

外国人参加者1人当たりの総消費額

催　事	単　価
企業会議（M）	325,069円
報奨・研修旅行（I）	319,722円
国際会議（C）	373,288円
展示会（EX）	274,893円
平　均	336,760円

観光庁：平成29年度「MICE経済波及効果算出等事業」調査

【訪日外国人旅行消費額】
旅行消費額（総額）（H30年）　4兆5,189億円

訪日外国人1人当たりの旅行支出（総額）　153,029円
観光庁：訪日外国人消費動向調査

※参考
定住人口1人当たりの年間消費額　125万円をカバーするような施策取り組み
旅行者の消費換算では、外国旅行者：8人分、国内旅行者（宿泊）：25人分
国内旅行者（日帰り）：80人分にあたる。

サービスの具体的内容について

1、プロモーション・MICE推進課の体制と業務内容
（1）職員数　10名（うち、再任用1名、臨時職員1名、R1.12.1現在）
課長1名、課長補佐1名、主査1名、副主査2名、主任1名、主事2名
再任用1名、臨時1名
（2）業務内容
①観光客の誘致に関すること
・観光客の誘致及び情報等の発信に関すること
・広域観光連携に関すること
・インバウンド誘致及び情報収集に関すること
・シティプロモーションの全庁統括に関すること
②MICEの誘致に関すること
・MICEの誘致、受入れ及び情報収集等に関すること
・コンベンション施設の整備及び管理運営に関すること

・所管外外郭団体の指導及び助言に関すること

2、主なプロモーション活動
・振桃太郎伝説創造発信事業
・白桃パフェ Day（東京、大阪）の開催
・フルーツパフェ情報発信
・圏域内周遊に向けた歴史、文化資源発信事業
・海外プロモーション
（フランス、台湾、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア、アメリカ）

3、MICE 開催誘致
（1）観光部門等との連携
①MICE 誘致戦略会議の設置
メンバー：岡山市、（公社）おかやま観光コンベンション協会、㈱岡山コンベンションセンター
②MICE 誘致戦略担当者会議
各団体の担当者が、毎月 1 回会議を開催し、MICE 誘致に関する様々な案件を議論
③その他の連携
・岡山大学とのコンベンション誘致、開催に関する連携
・協力協定の締結（学会等を開催する教授のサポートなど）
（2）主な MICE 誘致事業
・国際会議セミナーの開催（東京、大阪）
・ユニークベニューの開発・発信
・コンベンションバッグ・ノベルティの作成
・コンベンション支援メニューの充実（歓迎看板の設置、懸垂幕、フラッグ等）
・主催者への大会開催補助金の交付　など
（3）主な国際会議の開催実績
・ESD に関するユネスコ世界会議（H26）
・日中韓 3 か国地方政府交流会議（H28）
・「持続可能な観光国際年」記念国際観光シンポジュウム（H29）
・G20 岡山保健福祉大臣会合（R01）

今後の展開について
1、「桃太郎のまち　岡山」をキーワードにした魅力発信
2、ターゲットを絞ったインバウンド推進
3、産官学連携によるコンベンションシティの誘致

Q&A
Q1：重点施策となり観光部局の強化を図られたが、庁内や庁外の調整などの負荷はどうであったのか？
A1：10 年前は、観光協会にてイベント等を推進していた。そこに対しては、セクション（観光部局）としては上がった。しかし、（公社）おかやま観光コンベンション協会が頑張っているため、庁内組織はプレーヤーとしての負荷はない状況にある。

Q2：（公社）おかやま観光コンベンション協会に期待するところは？
A2：10 年が経過し、多くのスキルを身に着けた。これは、専門的に行うことによりできることであり、2～3 年で職場移動をする市の職員ではできないことで

	ある。その結果、大学や企業、地元などのつながりなど、人に関係する部分が大きく事業に左右するところがある。具体的な事例で話すと、リピート率の高い利用機関の担当者からは、協会担当者の個人名でやり取りをしている。結局はセールスも含めた運営については、「人」に関わる部分が大きいので、人材育成に注視して取り組んで頂いているところはありがたい。 Ｑ３：（公社）おかやま観光コンベンション協会の会長は？ Ａ３：平成 31 年度は、商工会議所の会頭がされていた。当て職と思っていたが、令和元年度は、ネッツトヨタ社長（商工会議所の観光部門長）で、理事はＪＴＢの社長が担っている。 Ｑ４：（公社）おかやま観光コンベンション協会のセールスの取り組みは？ Ａ４：大学や企業、地元などへのアプローチ（宣伝）や、JNTO のマッチングイベントを活用した宣伝などを行っている。 Ｑ５：コンベンション施設には調理場はあるのか、またその他の課題は何か？ Ａ５：調理場は設置されていない。基本的には、周辺のホテル（ANA クラウンホテルなど）や飲食店からケータリングをして、電気にて温めなどをしている。 また、その他の課題としては、岡山市は広大な展示スペースを保有する県のコンベンション施設（コンベックス岡山）がある。しかし、空港や駅から遠く利便性が悪い、市のコンベンション施設は高速公共機関の駅に隣接し、周辺に飲食店などもありとても利便性が良いが、展示スペースが狭いのが課題と認識している。 Ｑ６：駅周辺に集中した取り組みや駅周辺の飲食店などの反応はどうか？ Ａ６：市域が広いことから、駅周辺に集中した取り組みについては大きな課題と考えている。そこで、各地域においては拠点整備としてケアーしている。また、市内の行政アンケート調査においては、コンベンション施設に関する関心度は最下位となっている。そのためにも、認知度を上げるためにも駅に隣接した場所に建設した。 Q7：人口減少しているが、定住人口の促進策はどのように考えているのか？ A7：定住人口については、割り切っている。定住人口の一人当たりの年間経済効果 125 万円について、交流人口の経済波及効果で算出すると、海外からの訪問者で８人、国内で 25 人を目指して取り組んでいる。 Q8：市と（公社）おかやま観光コンベンション協会の役割分担は？ A8：（公社）おかやま観光コンベンション協会はプレイヤー、行政はそのプレイヤーが競争で勝てる力（武器：事業）を展開する。事業内容は、学会などの資金力によって異なるが、会費がギリギリなところは補助制度など、会費が有るところは、サポート体制などである。
本市への反映 （意見・課題など）	【鈴木英樹】 今後本市も、MICE を一つの手段として取り組みが進められます。成果を出すために、どのところにポイントを置いて進める事が有効的かを調査しました。 ポイントは５点有りました。①行政が主体ではなく、観光協会などの団体が意欲的に進める事が、持続的に良い方向にいく。②観光協会のメンバーの中には、国県や各種団体などの人脈づくりができる資質の担当が効果的。③行政と推進団体の役割を明確にする。④行政担当は、関係所管を取りまとめ、規制緩和や補助金などの支援を進め

	る。⑤コンベンション施設の周辺に、駅、食事、宿泊施設があると喜ばれる。但し、課題は駅などの周辺開発と取られやすいため、進めるにあたり時間をかけて丁寧な理解活動が必要と伺いました。 併せて、名古屋市と同じ政令市の進め方や考えも理解することができました。 今回の視察から、本市にとってはある意味「逆転の発想」で魅力づくりを図らなければ、持続的なMICEの手段は使えないと思いました。但し、役割や組織体制などの進め方は大変参考になりましたので、特別委員会担当者に伝え反映したいと思います。